

研究

フアツシズム經濟論

高橋次郎

一、緒——經濟と政治

資本主義の諸國は今や世を擧げて危機に直面して居る。諸國は、各々その國內に於ては、世界經濟恐慌は克服せられず、滯貨は山積せられてゐるにも拘らず失業者は街頭にあふれ、中小商工業者の没落は次第にその歩調を速かにし、而して農村の窮乏は日に日に急迫を告げ、これらに對する對策が要求せられてゐる。而して、國際的には、關稅問題、戰債及び賠償問題、貨幣本位制問題、軍備縮少問題等が重大問題となつてゐる。これがために會議につぐに會議を以つてしても猶ほ足りない様な狀態である。資本主義諸國に於ける此の未曾有の難

局を切抜けるために、今日各國に於いて對内的には「統制收益經濟」對外的には「侵略的封鎖經濟」がしきりに提唱せられ、且つそれが各國によつて實踐にまで移されて居る。別言すると、對内的には學國的強權主義、對外的には侵略的打倒主義へと向ひつゝある。即ち、「フアッシズム經濟」が擡頭しつゝある。之に反して、サヴェート聯邦に於いては共產主義への建設が行はれつゝある。此のフアッシズムとボルシェビズムとの二つが、今日の世界に於いて相對立する二大問題を提出して居る。本稿は前者を問題とする。

政治と經濟とは獨占資本主義の段階に入つてから次第に結合の度を高め、今日に於ては兩者の關係は極めて重大なる意義を有するに至つた。『フアッシズム經濟』に於ける種々の統制は勿論政治機構を通して行はれなければならぬものであるから、それはフアッシズム政治と手を携へて發達しなければならない。フアッシズムは、國際的に統一せられた理論によつて生れたものではない。各國の資本主義の危機に應化するために特殊的に要求せられた自然發生的なる運動形態である。故に、その初めに於いて隱密に提携せる經濟と政治とは、今や公然と融合するに至つた。

アキラ氏も言ふが如く、「たとへ伊太利の特殊な經濟的及び政治的狀勢が伊太利に於けるフアッシズムに多くの刻印を捺したとしても、フアッシズムと言ふものは、伊太利特殊の現象ではなくて、國際的に意義のある大きな現象である。それは、現今の經濟上及び政治上の一般的情勢に根ざすものである。」⁽¹⁾而して、それは初め

から何等かの嚮導的理論の定立があつてそれが實踐に移されたものではなく、又各國にそれ／＼特殊性があるにも拘らず、その本質に於ては次の如く理論付ける事が出来る様である。理論的に言ふと、ファッシズムは、一般的には資本主義の帝國主義的段階に於けるブルジョア獨裁の一形態であり、特殊的には其の崩壞期に於ける危機脱出のための資本攻勢の一形態に過ぎない。それは、經濟恐慌の深刻化によつて没落せる小市民階級（農民、小生産者、手工業者、小商人、インテリゲンチア、下級官吏、技師技手等）及び意識の低い一部の労働者層を其の大衆的基礎として成立し、社會民主主義の積極的支持をうける事なくしては成功を収め得ないものであり、國粹主義、民族排外主義、反議會主義、獨裁主義、反階級闘争主義、労働者の搾取、帝國主義的侵略戦争の煽動宣傳の強化等をその本質とするものである。⁽²⁾ 階級闘争の激化、政局の不安定、現状打破の要求——斯うしたものが直接にファッシズムを登場せしむる具體的條件である。斯うした資本主義の一般的危機を表明する様相は、それ／＼の國によつて必ずしも相同じきを得ないから、各國の特殊的危機に應化すべき運動にも特殊的の傾向のあるのは極めて自然の事である。⁽³⁾

斯くの如くファッシズムは、帝國主義の戦後の段階に於いて一般的危機に入り込んでゐる資本主義の政治的上層建築である。獨占の發展は資本主義の政治的上層建築の中に直接に構成的變化を齎らし、金融資本と國家機構との密接なる融合は國家經濟の「商業化」と私的資本主義的經濟の「政治化」を意味するに至つた。金融資本と國家機構との融合は外面にも現はれ、例へば獨佛通商條約、日獨通商條約等の如く、個々の國民的獨占

體間の國際貿易は國家間の公の通商貿易と殆んど同一である。又、それは、國家の極めて積極的な資本集中政策、金融政策、租稅政策、價格政策、信用政策等の方面にもあらはれる。此の過程は獨占資本主義にとつて特徴的なものである。斯くの如き經濟と政治の融合は、リッペー氏の言ふが如く、「本來、獨占資本が高度な集中性や經濟の命令權及びその巨大な組織に基いて國家機構を直接的及び『獨占的』に自己に従屬せしめ、そして國家機構に對する『未組織』の資本のグループの影響を驅逐すると言ふ事を意味するのである。」⁽⁴⁾

斯くの如く、資本主義的經濟の危機に際會して、資本主義の政治的上層建築を『内部から』フアッショ化し、以つて金融資本と國家機構の融合の上に於いて、フアッシズムの經濟を發展せしめんとする傾向が強く現れざるを得なかつたのである。茲に銘記すべきは、「政治的意圖の下に生れたフアッシズム運動が、經濟鬭争の場面にも強く進出した所に、イタリー・フアッシズムの特質があり、⁽⁵⁾ フアッシズム一般の特質も亦此の點に存する、と言ふ事である。

前述せる所によつて明かなるが如く、戦後に至つてからは特に獨占資本と政治との融合がその緊密の度を増し、經濟と政治とは復昔日の如く否それ以上に密接なる關係を保つて一身同體となりつゝあるが故に、吾々が『フアッシズム』を云々する時、それは常にその政治的面のみならず、又その經濟的面をも包含すべきである。即ち、その中には經濟と政治とが融合統一せられて居なければならぬのである。（それ故に、『フアッシズム經濟』とか『フアッシズム政治』と言ふのは語弊があるかも知れぬ。だが、實際上の必要と便宜とは、私をし

て斯かる語を使用せしむるに至つた。)

今、私は直接の問題としてはファッシズムの經濟的面のみを取扱ふのであるが、その際私は特に次の様な事を明かならしめ様と意圖するものである。一般にファッシズムは國內政策の問題としてのみ觀られてゐる様であるが、しかしファッシズムは單にそれのみに止らず對外政策をも貫き、内外相呼應して同一のファッシズムの原理が世界の資本主義列強の中に漲つて居るのである。これは資本主義の諸國に實踐的に又は觀念的に客觀的に與へられて居る事實である。私は、かゝる事實を客觀的に一般的に理論的に説明せんとするものである。

リッペー氏は曰ふ「資本主義はその危機の『克服』のための新なる政治的手段を國內政策の領域ではファッシズムに見出すが、それに反して最も集中的な政治的手段としての對外政策の領域では最後にして且つ唯一の『活路』としての戦争に求めねばならないのである。」⁽⁶⁾と。其他多くの人々もこれと同一の見解をいだいてゐる。私は此の事實を否定するものではなく、寧ろ此の對内政策と對外政策との間に一貫せる原理を探究せんとするものである。即ち、國內に於けるファッシズムと對外政策たる戦争との關係如何を問題とし、兩者を統一的に説明せんとするものである。

- (一) アキラ著、廣島譯『伊太利に於けるファッシズム運動』六頁
- (二) 改造社版『ファッシズム研究』中の、

篠村敏「我國に於けるファッシズム論の批判」二八二―三頁

河野密「フアツシズムの組織理論」四八—五〇頁

(三) 前掲書中の、

赤松克麿「各國フアツシヨ運動の特殊性」及び、矢次一次「日本に於けるフアツシズム運動の展望」參照。

(四) リッペー著、磯貝實譯『フアツシズム研究』六頁

(五) 河野密「フアツシズムの組織理論」六四頁

(六) リッペー前掲書、三頁

二、フアツシズム經濟への發展

『自由』をモットーとして其の發展の歩を踏み出した資本主義は、地球の表面の主要なる部分を一種の經濟的相互依存關係にまで結合した。かくて、昔の封建的自給自足は過去の夢となり、『世界經濟』が成立した。アメリカの女優は信州の山奥の繭から製した沓下を愛用し、日本人もカナダの小麥から製したパンを食ふ。斯かる經濟的相互依存關係は、(A)特殊の原料及び土地の地理的所在と、(B)交通運輸の素ばらしい發達⁽¹⁾と言ふ二個の事實を基礎として發達したものである。併し乍ら、『世界經濟』は未だ一個の政治の下に於ける一個の經濟にまで發達しては居ない。今日、世界には七十の形式的獨立國がある。併し、その凡てが實質的に即ち經濟的に獨立性を具有して居るものではない。戦後の世界の政治的實在は、決して形式的に獨立せる國家ではなく、幾つかの國家の合成せる『經濟群』又は『ブロック』であると言ふ事が出来るであらう。そして、その各群は各々

金融資本國によつて支配せられ、且つその中には若干の從屬的小國家又は植民地等を包含して居る。輓近、企業がコンツエルン化せられて偉大なる獨占力を發揮しつゝあると同一の傾向が、諸國家の間にも現はれ、今日の世界の政治的實在は「經濟群」となり、法律上各箇獨立の七十の國家ではなくなりつゝあるのが、一般的傾向である。斯くて、アメリカ經濟群、大英經濟群、佛蘭西經濟群、極東經濟群、及び前四者とはその體制を異にせるサヴェート經濟群こそは、今日の世界の政治的實在であり、國際的諸問題の殆んど大部分は此の各經濟群が自己を強大ならしめんが爲めの鬭争から發生するものである。

例へば、英國產業聯合會の委員會は、七月二一日オッタワで開かれた英帝國經濟會議に「英帝國を一九とする經濟單位を作れ」と言ふ左の如き提案をなした。「今や、合衆國は南北兩米を糾合してこれを一の商業單位に纏めんと努力し、極東に於ては日本を中心とするブロックが形成されつゝある。一方歐洲に於ては佛蘭西が植民地帝國の樹立を計りつゝあり、中歐諸國では提携問題が審議中である。一方英國及び英帝國自治領は外國の壓迫により苦境にある。此事實は英帝國內に於ける大々の經濟單位設定の必要なることを示してゐる。」⁽⁵⁾此のオッタワ會議は十二の協約成立を獲物として八月二十日に終了したが、斯る大英經濟ブロックの主張は、明かに「帝國主義的色調の強いファッシヨ傾向」⁽⁶⁾であると言はざるを得ない。

これと同様の事を、『滿洲新國家と極東經濟ブロック』と言ふ論文に於いて我國の商工大臣中島久萬吉氏が主張してゐる。曰く、

「從來日本は世界經濟の一單位として産業立國による原料品の輸入、工業品の輸出、工業化による密集人口の吸収を意圖したるが、世界經濟に於けるブロック經濟の對立と關稅戰爭の發生は遂に其進路に暗影を投じ、我が經濟界をして益々不況に陥らしむるに至つた。即ち、アメリカ及びロシアの二大陸には已に一大經濟ブロック成立し、ヨーロッパに於ては歐洲聯合、英國に於ては英本國と其自治領植民地等との間に大英同盟成立せんとし、是等四大經濟ブロックは其の經濟圈内に於ける自由通商を目的とし、一方支那に對しては門戶開放、機會均等の鐵則を下し、其餘剩生産品を後進資本主義社會の多き亞細亞市場に於て解決せんとしてゐる。然るに、アジアに於ける後進資本主義社會は、日本商品の支配圈内にあるが故に、是等四經濟ブロックの門戶閉鎖とアジア進出は日本の工業化政策に對し二重三重の壓迫を加ふるものである。……故に、日本としては、滿蒙、朝鮮、内地を打つて一丸とし極東經濟ブロックを組織し、前記四經濟ブロックと對立せざるを得ない。」⁽⁴⁾と。

これは單なる主張たるに止らず、政治政策はかゝる方向へと進められつゝある。

斯様にして、今日、暫らくサヴェート聯邦を視野の外に置き、資本主義の領域に於いて相尅しつゝある經濟群を觀ると、その各群の中に於ては對内的には『統制收益經濟』對外的には『侵略的封鎖經濟』が支配的ならんとするの傾向を示しつゝあるのである。即ち、『自由』をモットーとして生誕した資本主義は、其の成長に伴れて次第に獨占的統制的色彩を帯びる様に推移して來た。社會の發展を辯證法的に觀ると、資本主義は封建經濟を否定して即ち資本家階級が封建諸侯を打ち倒して發生し、又その資本主義は勞働者階級（及びその指導の

下にある中間階級）によつて資本家階級が打ち倒される事によつて否定せられて共產主義へと發展する。今吾々が問題としてゐるファッシズム經濟は統制經濟をとるものであり、その限りに於いて自由資本主義ではない。しかし、ファッシズム經濟に於て支配的地位にあるものは中間層と結びついた資本家階級であり、収益性の原理が作用して居る限りに於いては、それは依然として資本主義のカテゴリーに入るべきものである。即ち、これは、資本主義の中に於ける生長發展に外ならない。此の意味に於て、資本主義、協同組合主義（ファッシズム經濟）、共產主義と云ふ風に三者を對等に並べて分類することは矛盾である。前述の如く協同組合主義即ちファッシズム經濟は、資本主義の一發展段階に過ぎず、そこには未だ利潤を追求する『収益性原理』の支配してゐる事は争へない事實である。これは、たゞ『自由放任』から『統制』へと推移せる一點に於いて、初期の自由資本主義と區別せられるのである。

然らば、何故に資本主義はファッシヨの衣をまとつたか？『世界經濟』は自由資本主義の產物であつて、安定せる貨幣本位制度を基調としてその上に於ける自由貿易・自由なる金の移動を條件として始めて成立し得るのである。然るに世界經濟の發展に伴れて關稅戰爭は彌が上にも激化し、又戰爭、戰債及賠償金の支拂並びに列強の經濟力の變遷等によつて『金の偏在』なる現象が発生するに及んで、「自由なる商業政策及び世界市場に於ける資本及び商品の經濟的に均衡のとれた分配の前提」⁽⁵⁾たる金本位制は停止又は再停止せられるのやむなきに立ち至り、その結果外國爲替相場の暴落は新たに『爲替管理』や『貿易管理』を生むに至つた。斯かる條

件の變化は自然發生的に所謂『フアツシズム經濟』を生み出さざるを得なくなつたのである。

斯かる發展は帝國主義の發展の不可避的結果の一である。

金融資本は、先づ第一に國內的獨占を基礎とするものであるが、それを更に大いに發展せしめんがためにはその獨占の及ぶ範圍即ちその祖國の領土を擴大しなければならない。所が、獨占資本主義時代に於ても、自由競争が完全に消滅してゐるのではなく、相對立する原則即ち自由と獨占とを結合する事によつて獨占體間の競争又は獨占體と非獨占體との間の競争を一層激しくするのみならず、更に舞臺を大にして國際的な規模に於ける金融資本國の競争を更に一層激化せしめる。これが帝國主義にとつて特徴的な事である。故に、政治は、斯かる領土擴張慾を充さんがために、侵略主義的政策として現はれる。而して、戦争は斯かる政治的延長の表現である。「かくして獨占的金融資本の時代は帝國主義の時代であり、戦争の時代である。戦争はいはゞ一種の恐慌である。國際的規模に於て、強度に蓄積され、集中された資本の更にその集中を完成せんとする衝突であり、『過剩』なる諸資本整理の一手段である。」⁽⁶⁾

資本主義は商品生産を基礎としてゐる以上、先づその原料及動力資源を手に入れる事が必要であり、又是等のものを使つて生産した商品を販賣しなければならぬ。資源は最も強く地理的制約を蒙り、吾々が此の世に活きる限り『資源』を離れては人口問題も食糧問題も解決する事が出来ない。況んや當今の世界の政治經濟は、此の資源問題を究明せずしては、其の現状並びにその將來の動向を眞實に把握し難い事は言ふまでもない。故に、

資源獲得戦争は、商品の販路の確保と共に、列強対立の基礎をなして居る。商品販賣に際して、トラストやカルテルの如き獨占體は、高き關稅障壁に保護せられてゐるが故に、外國商品の輸入を防ぎ、⁽⁹⁾ 國內市場に於ては高き獨占價格を保つ事が出来る。而して、外國市場に於いてはダンピングする。此時、國家の輸出プレミアム制度によつて積極的に保護せられる事もある。又、金輸出禁止の結果爲替相場が下落して輸出が増進するに至る事もある。⁽¹⁰⁾ 斯様に一國が關稅障壁を高くすると、他國もそれに伴れて高くする。又、前述の如く他國から爲替下落により大なる輸入が行はれる様になると、それだけ又關稅を引上げる。⁽¹¹⁾ 今や、關稅戦争は激化し、世界中到る國に極めて高率の關稅が殆んど汎ゆる商品について課せられる様になり、各國共に輸出が著しく妨げられるに至つた。此の一聯の現象の中に、既に、各國が對外關係に於て各々その經濟の統制に積極的な一歩を進めつゝあることを、明かに觀る事が出来るであらう。

斯くの如く高い關稅障壁は其處への商品輸出を妨げるのに役立つ事は疑のない所であるが、併しそれは商品輸出の代りに資本輸出を妨げるものではない。即ち、他國に工場を建て其處で商品を生産し販賣する事によつて利潤を得たり、又は外國の企業に資本を貸與して利子を受取ると言ふ方向に進む。金は商品よりも容易に國境を超へ得る。此の資本輸出は帝國主義の一大特徴をなす。⁽¹²⁾ 所が、戰後、關稅戦争の激化、戰債及賠償金の支拂その他經濟事情の變化に基いて金が米佛の二國に偏在するに至り、⁽¹³⁾ 各國は勢ひ金本位制の停止又は再停止、爲替管理、貿易管理等の方策を用ひて、資本の國外への輸出即ち金の流出を妨げ、更に此の方面に於ても、

對外經濟關係の統制化へと進軍しつつある。

とは言へ、現代に於ては商品輸出よりも資本輸出がヨリ重要な地位を占めて居る。故に、一九世紀の初には販路開拓のために戦端を開かうと待ち構へて居た列強は、今や資本輸出市場強要のために、その力を行使しつつある。蓋し、資本輸出は商品輸出よりも國家の保護をヨリ多く必要とするからである。故に、最近四五十年間に於ては、各列強は主として資本輸出の利益を確保するために、外交と武力とを發動して植民地の擴大に苦心して居る。故に、國を異にする二組の資本輸出者間の利害の齟齬を來した地方に於ては、その背後にある二國の政府は忽ち事件の渦中に捲込まれざるを得なくなる。同様の事は、資源獲得戦及び商品販賣戦等に就いても言へる。斯様にして、國際的競争の當事者は今や近代적軍備を有する帝國主義國家となり、その競争の決定的手段は戦争となる。

而して、植民地と本國との交通を圓滑にしその統制を完全ならしめる事によつてその支配を確實にし、且つ商品旅客等を輸送する上に於いて、交通路の支配と言ふ事が極めて重要になる。此の海陸空の交通路は、又、一朝戦争の勃發せる秋には直ちに動員せられて、極めて重要な役割を演ずる事となるのである。

斯くの如き經濟社會の發展は、必然的に、各列強をして次の如き地理的制約の下に立たしむるに至つた。各列強は、汎ゆる原料及び動力資源、商品及び資本の輸出市場、是等の汎ゆるものを確保せんとする欲求の表れとしての植民地、及び海陸空の交通路を、直接間接に自己管理の下に置く事の必要に迫られる。

若しも列強の斯かる活動に對して何等の障礙も存しないならば、換言すると資源も市場も潤澤に存するならば、事態は頗る簡單であるのだが、事實は之に反する。今や世界の領土は凡て列強によつて分割済となつて居て、各々經濟群又はブロックを形成しつゝある。此の現實の政治的區劃は決して經濟的相互依存關係をその儘反映してゐるものではない。いま、經濟的相互依存の可能なる經濟圈を經濟地理的に區劃すると、北米、南米、歐及近東、アジア、中及南阿、太平洋の六經濟圈と爲すことが出来るであらう。これは、勿論、現實の五經濟群と一致するものではない。例へば、カナダと合衆國とは、經濟的相互依存關係と言ふ點から見ると當然一個の經濟圈を形成すべきにも拘らず、現實の政治的區劃はこれをその儘反映する事なく、その間には國境が敷かれて居るのである。これ即ち『地域錯誤』である。それ故に、現下の世界の政治經濟的諸問題を正當に理解するの鍵は、一に懸つて此の『地域錯誤』即ち「經濟的相互依存關係と政治的分離と言ふ事實」を知悉するに在る。

扱て、現實の世界をみると、資源・市場・植民地及び交通路の巨大なる支配を目指す各經濟群が地域錯誤の下に置かれて居る。それ故に、かゝる矛盾を内藏せる不自然なる均衡狀態は、各群間の利害の一致せざる時に破れ、そこに國際紛争及び戦争が発生し、新なる修正せられた均衡狀態が成立することとなる。だが、これによつて編制替が行はれるだけで、此の狀態も亦依然として矛盾を含む。そこには、地域錯誤が存する。故に、戦争に備えんがために平時に於てすら其の軍事費は彌が上にも膨大する。⁽¹²⁾

前述せるが如き經濟的發展は各列強を『フアッシズム經濟』へと驅り立てるのであるが、猶ほ此の外に、最近三年間の打續く世界經濟恐慌の激化は、益々市場を狹隘化する事によつて、斯かる傾向に拍車をかけつゝあるのである。

- (一) Horabin, Outline of Economic Geography. pp. 65—6.
 - (二) 『國際經濟週報』昭七・六・三〇
 - (三) 佐々弘雄「フアッシズムと現代」(改造社版『フアッシズム研究』)三四七頁
 - (四) 中島久萬吉『社會政策時報』第四百十號(昭七・五)一一七一—八頁
 - (五) Dr. Herbert von Beckerath, "Politik und Welkrisis" (Schmolters Jahrbuch. 56. Jahrgang. 3. Heft.) s. 9.
 - (六) 向阪逸郎「フアッシズムの社會的基礎」(改造社版『フアッシズム研究』)一二頁
 - (七) 英國商務省の發表によると、各國の關稅引上の結果、一九三一年は前年に比して、米國の輸出は三七%、英は三一・八%、獨は二〇%の減少を來した。(『國際經濟週報』昭七・六・三〇)
 - (八) 本年四月、英國(昨年九月金本位停止)の輸出は爲替下落の結果として、三月よりも一〇%増加した。之に反して、米國(金本位維持)のそれは一三%減少してゐる。(『國際經濟週報』昭七・六・三〇)
- 日本の昭和七年第一・四半期の對外貿易は入超一億五千九百萬圓で、前年同期の入超三千六百九十二萬圓を遙かに超へてゐる。これは輸入の激増(二四%)にも因るが、反對側の原因もある。日本は昭和六年十二月に金輸出再禁止を行ひ、爲替が下落したので、輸出は當然促進さる可き筈であるのだが、反對にそれは現實には前年同期に比し一四%も減少してゐる。その原因は、一般的には世界恐慌の深化による各國の購買力の減退及び關稅障壁の高度化にあり、特殊的には

日貨排斥のため對支輸出が激減した事にある。故に、支那以外の國について見ると、微弱乍らも爲替安が輸出を有利ならしめた點を認める事が出来るのである。『日本經濟年報』(一四七一—一五四頁)

(九)

日本の金本位停止による爲替下落の結果、日本の綿布綿糸等が減茶減茶の安値を以つて印度市場で賣られてゐるのみならず、多額の先物契約があつて將來更に悪化する惧れがあるので、最近の情報(シムラ二九日發聯合)に據れば、印度政府は、英國以外の綿製品に對しては、現行從價三割一分二厘五毛を從價五割に引上げる事に決定した。但し、平織生地綿布は從價五割か或は從量一ポンドにつき五アンナ四分の一かの孰れか高き方に引上げる事に決定。

(十)

アメリカは、大戰勃發當時三〇億弗の債務を負つてゐたが、大戰を契機として大債權國に變つた。本年一月現在の純投資(短資を除く)一九五億弗、其他の債權一八〇億弗あり、年收利子一〇億弗を超へる。

(十一)

世界金保有高(百萬ライヒス・マルク)『世界恐慌——數字に現れた』一八九頁

	一九一三年末	一九二七年末	一九二九年末	一九三〇年末
全世界總計	四一、二六七	四五、七六〇	四八、三五二	五〇、一一四
アメリカ	七、九三七	一八、三八四	一七、九八四	一九、二八一
フランス	五、八八七	四、一二八	六、八五五	八、八一二
ドイツ	四、一八〇	一、九三一	二、三四九	二、二八二
イギリス	三、九二〇	三、一一三	二、九八三	三、〇三〇
イタリア	一、四〇一	九五一	一、一四七	一、一七〇
日本	五四六	二、五三六	二、三二三	一、七〇四

全世界の金保有高は、一九一三年に比して一九三〇年は二一・四%増加したに過ぎないにも拘らず、個々の國に於いて

はその配分に著しい變化が起り、アメリカと佛蘭西に集中する傾向を示し、一九三〇年にはフランス一國だけでも英、獨、伊の合計よりも多い金を保持してゐた。所が、最近に至つてからは、佛國の金保有高は日を逐ふて太つて居るのに反して金は合衆國からも流出する様になつたが、此の流出も此の夏頃からやむ様になつて來た。

(三) 試みに、一九一四年と一九三〇年との軍事費を比較すると、次の様である。

	一九一四年	一九三〇年
イギリス	七七百萬磅	一一一百萬磅
フランス	五六百萬磅	九五百萬磅
日本	一九百萬磅	四七百萬磅
イタリ	二六百萬磅	四九百萬磅
合衆國	五八百萬磅	一三三百萬磅

法政大學『世界經濟』(昭七・七)六五頁

三、侵略的封鎖經濟——フアッシュイズム經濟の對外的面

前述の如く、今日の世界の政治的實在は五大經濟群であると言ふ事が出来る。その盟主たる各列強は、各々他からの侵入を妨禦するのに専らであるが、反對に他國に對しては機會ある毎に侵入せんとするの野望を捨てゝるものではない。自ら關稅壁を高く築き乍ら他の市場開放を叫び、一方資本を輸出し乍ら他方外國熱の高きを慫慂へる。そこに矛盾がある。斯様にして、「一方では經濟生活を國際化し、他方ではこれを『國民的』枠内に箝

め込まんと努める。だが、汎ゆる障礙にも拘らず、國際的關聯の基礎は絶えず増大する。⁽¹⁾即ち、今後の世界經濟の發展は、世界的關聯から絶縁された、出入共に封鎖された自給自足の經濟的自立制へと分裂し去るものではなく、『經濟群』的結成と世界を舞臺とせる『群際的』(ブロック間の)新軌轢とに向ふものである。此處に世界再分割のための國際紛争及び戰爭の危機が潜んでゐる。

斯かる『侵略的封鎖主義』⁽²⁾の最近の表れは、『ダニュープ問題』である。此問題は、本年二月佛首相が切り出したもので、ダニュープ沿岸の五つの中歐の小國を經濟的に一丸として是等の諸國の久しきに亘る窮乏を救はうと言ふのが其の表面の理由であるが、その本質は此の五國を誰が支配するかにある。即ち、從來英伊獨の勢力の下にありしものを佛國がその絶大なる金融力を武器としてせしめ取らうとするにあるのである。一般に、イタリーのファシズムについて述べる時、その對外政策が看過せられてゐるのが多い様である。併し、ムッソリニ氏が一九三一年十月ナポリでその民兵に軍備徹廢の演説をなした時その演壇の脚部には『ダルマチア』⁽³⁾の獲得か、死か!』と言ふ大旗が掲げられてゐた程である。それ故に、ネンニ氏 (Pietro Nenni) の如きは、「國家の全組織を戰爭のために整備する」⁽⁴⁾イタリーのファシズムを呼ぶに『新帝國主義』Neo-Imperialismus の名を以つてする。

ところで、世界の領土は今や既に分割済となつてゐる。戰爭はその編制替を行ふ丈けである。世界大戰後、歐羅巴には政治的國家の數は増加し、新たに獨立した小國家を始めとして、委任統治國、國際聯盟管理地域等

が生れた。それが戰勝國の利益になる様に配分せられ、英國は獨乙の東方政策を完全に破壊したのみならず、更に石油と穀物を與へるメソポタミヤ、パレスタイン等を支配した。同時に、コンスタンチノープルと其の海峡地帯（地中海の關門）を國際聯盟の管理の下に置き、且つ英國の手先たるギリシヤを強大化する事によつて地中海航路を確保した。之に對して、佛國は獨國からその最も重要な鐵及び石炭をうばひ、又地中海の對岸たるアフリカにもその利害關係を深め、従つて英國の地中海航路を脅かして居る。世界戰爭に於て獨乙を倒した英國は、此の戰爭の結果獨乙に代る新なる勢力佛國を得て、英佛の利害關係は、此の地中海に於いてもクロスするの度を高めた。戰後の再分割の結果、何等かの形式に於て、英國はスカンデナヴィヤ諸國・バルチック諸國・和蘭・匈牙利・ブルガリア・ギリシヤ・ポルトガルを、佛蘭西はベルギー・チェッコスロバキヤ・ルーマニア・ユーゴスラビヤ等をその勢力の下に立たしめ、又獨乙・ポーランド・奧太利・スペイン等に於いては英佛の兩勢力が共に支配し、他方アメリカの資本の支配はこれらの小國のみならず英佛本國自體の上にも及んでゐる。

ヴェルサイユ平和條約は、斯様に世界地圖の色彩をかへた。これは、世界の經濟及び政治を安定せしめたであらうか。歴史は、明確に『否！』と答へる。世界大戰そのものが列強間の利害の衝突の歸結であつた様に、平和條約による新しい再分割の後に生れ出でた修正せられた均衡狀態に於ても、そこに根本的な『地域錯誤』が廢除せられない限り、また幾度となく繰返して斯かる新均衡の破壊即ち領土の再分割又は再三の分割と言ふ

矛盾が擴張再生産せられざるを得ない情勢にある。それ故に、一國が他國と利害を一にせざる地點に於いては、必ずそこに世界的なる大問題が発生せざるを得なくなる。現に、それが、世界大戰後に於いても、國際的な諸會議、紛争、事變と言ふ形態に於いて現れてゐる。例へば、日本は、支那分割の問題及び太平洋上の優越的地位の問題を、具體的に滿洲事變及び上海事變と言ふ形で提出した。支那に對してはサヴェート聯邦と帝國主義列強との對立が最も鋭く現はれ、サヴェート・ロシアは全支那を包むサヴェート支那の樹立を企圖し、之に反して英、佛、日は支那分割に結末をつけようとし、アメリカ合衆國はその經濟的優勢による平和的競争によつて支那に政治的獨立を形式的に保たせておき乍ら實質的に自國の半植民地として置かうと云ふ風に、列強は各々支那を今後も尙ほ帝國主義的抑壓の對象として取扱はうと欲してゐる。斯くの如き事態の下にあるが故に、帝國主義的諸國は必然的に反サヴェート戰線を敷かうとするに至り、その前衛隊として日サ戰爭の噂が高い。又、「日本の上海進出はアジアの搾取への合衆國相應の參加を終結的に排除しさうである！」から、太平洋上に於ける日米の對立は現在尖鋭化して居り切迫してゐる。⁽⁶⁾これ、日米戰爭の呼ばれる所以である。

斯様にして、現世界に於ける『地域錯誤』と言ふ根本的な事實から導き出されて、地球の全面に亘つて五大經濟群（ブロック）のそれ／＼の間に衝突地帯が潜在又は顯現して居る。

五大經濟群中最大の勢力を有するアメリカ經濟群の政策は、合衆國を盟主とする一の資本主義世界同盟へと向ふ野望である。これは、必然的に英國と敵對關係に立つものであるから、英佛の争に於ては合衆國は常に佛

國側に立つ事を忘れない。又、合衆國は極東の將來の支配を望むが故に、此方面に於ける日本の行動に神経過敏とならざるを得ない。

大英帝國は、戦後、合衆國の世界制覇の政策、佛蘭西の歐洲支配政策、及び大英帝國ブロック自體の分解作用のために、デレンマの深淵に陥つてゐる。英國は合衆國と對抗するためには日本と親交を保つが、印度との關係に於いては日本に背を向ける。そして、近東に於いては埃及と印度との連絡を目指す政策をとつて居る。

佛蘭西は大戰によつて舊敵獨乙と舊同盟國帝政ロシアとを失つたが、ロシアに代るにポーランド・チェッコスラバキア及びルーマニアを以つてした。そして、サヴェート聯邦とドイツとの接近を阻止し更に進んでドイツを歐洲聯盟に解體せしめんと苦心して居る。近東に於いては、英の近東政策に對抗してトルコを援助して居る。

日本は、その存續と發展の必要上、合衆國の極東政策と正面衝突を免れない。英國は最早頼むに足らず、佛國は對英關係に於ては日本に好意を示すが、合衆國に關する場合には日和見的である。

五ヶ年計劃により新體制の建設に全力を傾中して居るサヴェート聯邦は、自らは帝國主義的戰爭に参加しないであらうから、此の限りに於いては前述の四國と一致點をもたない。だが、今日、反サヴェート經濟戰線と赤化防衛策とが、サヴェート聯邦に對して帝國主義列強から向けられて居る。故に、こゝにも燃焦點が潜む。(5)

斯様な状態は、更に、最近三年間打續いた世界經濟恐慌によつて一層尖鋭化せられ、今や危機は一本のマツチによつても燃え上らんとするの情勢に直面して居るのである。

- (一) N. Bucharin, Imperialismus und Weltwirtschaft. s. 164—5.
- (二) 『侵略的封鎖主義』——此の術語は矛盾を包む。しかし、これは、矛盾を包む事實に對する命名なるが故に、その限りに於ては矛盾ではない。此處に云ふ「侵略」はただ自國からの自動的活動のみを許容し他からの受動的侵略は拒否するものである。又、「封鎖」は自己の領域には他からの參加を拒み乍ら他の領域には自ら進んで參加し得る様に門戸開放を要求するものである。
- (三) ヴェルサイユ條約によつて、奥匈國は五の小國に分裂した。その一であるユーゴスラビヤ國の一州にダルマチア Dalmatia がある。それは、アドリア海に臨む細長い州であるから、伊太利はこれを領有する事によつてアドリア海を自己の湖水の如きものにしようと希求する。ユーゴスラビアはその國境の設定に際して、伊太利のダルマチア及びアドリア沿海地に對する要求と對立し、ために開戦にまで至らんとしたが、ユーゴスラビアは未だその國狀不統一のため屈服して、遂に一九二〇年十一月調印のラツパロ條約によつて、イストリヤ、フィウメ、ザラ及びケルソ、ルツシン諸島を伊太利が領有する事を認めた。だが伊太利はこれに満足せず、引續きダルマチアの支配を望んでゐる。
- (四) Pietro Nenni, „Die internationale Politik des italienischen Faschismus.“ (Die Gesellschaft. IX. Jahrgang. Nr. 1.) s. 18.
- (五) 菊川忠雄「大戰危機途上の經濟地理學」(改造、昭七・四)及び文藝春秋(昭七・五)中の「世界の燃焦點」參照。

四、統制收益經濟——ファシズム經濟の對内的面

斯様に對外的關係に於いて重大なる役割を演ずる近代的戰爭には、『三つのM』Men, Money and Munition 人、貨幣及び軍需品が必要であり、且つそれらのものが短期日の中に大規模に動員せられる事が必要である、と謂はれて居る。『國家總動員計劃』は、來る可き戰爭に備えるものである。今日では、企業が少數の獨占資本家に掌握せられてゐるし、又各種の統計作成が發達したために、斯かる計劃の遂行は極めて容易になつた。即ち國家總動員計劃を必要ならしめた近代經濟社會の發展が、同時に國家總動員計劃を容易ならしめて居るのである。

國家總動員とは、「國家權力の把握する汎ゆる資源、機能、施設の一切を、國家權力の意志に仍て統制安排する」の事を謂ひ、それは次の如きものから成る。(2)

- (一) 陸海軍の動員、
- (二) 主要軍需品の原料及びその工場を政府の統制下に置き生産を一手に統轄し(産業動員)、
- (三) 地方食料政策を通じて國民の消費を定め、
- (四) また水陸の交通の大部を政府の手に移し(交通動員)、
- (五) 國民の従業を統制して勞働を強制し(國民動員)、
- (六) 財政、金融、教育等を戰時の要求に適せしめて、その態様を變改し(財政動員等)、
- (七) 遂には、工藝學術娛樂の如きものも同様に戰爭に寄與する様に統制する。

斯様に國家總動員計劃は國內に在る汎ゆる資源、機關、施設、金、人馬等の一切を政府の統制の下に置く事

を必要とするものなるが故に、先に考察せる國際的關係に於ける商品及び金の移動に對する統制と言ふ事も亦此の國內に於ける統制との關聯に於いて併察する事によつて始めて其の眞相を知る事が出来るのである。

擬て、經濟生活に於ける統制的要素は決して今始めて發生したものではない。その發生の跡をワーゲマン氏に據つて辿つてみると、次の如くである。

價格統制は至極徐々に既に自由資本主義時代の胎内に於いても賃銀及び物價の定率表と言ふ様なものとして發展して居た。

やがて、一八七〇年代（英）及び一八七三年（獨）には、労働組合による團體契約を以つて賃率公定表を定めるの萌芽が現れた。此の賃銀協定及び労働組合と略々併行（又は對立）して、カルテル的價格統制が發展した。特に、獨乙では一八七九年關稅率を定めて保護貿易主義に推移した事が、特にカルテル制度を促進せしめた。

世界大戰後、保護主義は益々進展し、從來のカルテル並びに労働組合以外に、國營事業及び社會救護施設（社會保險、失業保險）があらはれ、又國家が小麥及び棉花（合衆國）米及び生糸（日本）の價格決定にまで強く關與する様になつた。そして、一方『統制欲望經濟』^⑤（ボルシェビズム）がサヴェート聯邦に於いて完成の域に進みつゝあると同様に、他方『統制收益經濟』^⑥（ファッシズム）が資本主義の領域に於いて次第にその

歩みを進めつゝある。(4)

極く最近『産業合理化』なる標語が、全歐羅巴は勿論全世界の資本主義國を席捲したのを、人々はよもや忘れては居ないであらう。此の「古い現象に對する新しい言葉」(ヴァルガ)たる『合理化』は、戰敗國ドイツに於て一九二五年所謂資本主義の安定化期に時代のスローガンになつた。その時、「多くの識者は、此の標語に於いて、危殆に瀕した末期の資本主義を若返らせる何か新奇な方策が発見されたかの如き幻想をもつた。資本主義の發展は永久に確乎たる新段階(例へばヒルファードング流の超帝國主義の時代)に据ゑられたかの如き謬想を抱いた。」⁽⁵⁾併し、かゝる考は客觀的事實に對する科學的規定ではなくして、單なる資本家の願望の規定に止つて居た。『産業合理化』のスローガンの下に、生産技術は著しく革新せられ、大なる獨占體(カルテル・トラスト・コンツェルン)が極めて大なるテムポを以つて結成せられた。然るに、合理化の進展は、私的獨占制の下にあつては、必然的に種々の欠陥を暴露せざるを得なかつた。今、小島精一氏に據つて、⁽⁶⁾ かゝるものを數えあげてみると、次の如くである。

- (1) 大獨占國がその強大なる資本的暴力を濫用して、弱小競爭者を壓殺し、
- (2) その結果、正當な競爭の出現を阻止し、法外な釣上による特殊利潤を貪り、
- (3) ために、社會的生産力が計劃的に死藏され、(労働者の失業を必然に伴ひ、)
- (4) 生産技術の進歩が停滯し、(合理化への刺激は僅かに海外競爭者から與へられるが、それも關稅保護により鈍化され、)
- (5) 階級的對立意識が尖鋭化し、——鬭爭の激化、無産労働者の忿滿と責任感の缺如、怠業、罷業等が頻發し、

(6) 購買力の片寄から来る奢侈的生産への片寄りが生じた。

(7) それにも拘らず、勞働大衆の購買力の減退は、國內市場を狭化し、必然に海外進出政策に特別な重要使命を與へる。その結果、國民經濟は封鎖的傾向をとる。

(8) 齟つて、獨占運動の精力的な發展にも拘らず、自由生産から来る無統制は全體的には救はれてゐない。従つて、各部門間の均衡は保持されるに到らない。等々。

斯くの如く、『合理化』が進展すればする程、益々痛切にその諸欠陥が感ぜられるに至つたのであるから、私的獨占到對する不信認が次第に激化して來たのは自然の數である。技術的合理化は良いが、それが私的に獨占される事はいけなから、國家的統制によつて新局面の展開を企てなければならぬ、と言ふ考が著しく擡頭して來た。『産業合理化』運動は主として個々の企業經營上の問題であつた。然るに、今日では、此の産業合理化のもたらした諸欠陥、世界恐慌及び戰爭の危機が相合して、それは、個別的企業經營の合理化問題よりも寧ろ一國民經濟又は進んで一經濟群の合理化、即ちその中に在る全經濟組織の統制を問題とせざるを得ない様に導いたのである。即ち『産業合理化』ではなく、『産業統制』が、新しいスローガンになつた。斯かる見解は、サヴェート聯邦の『五ヶ年計劃』の進展度に刺戟せられたものであると言はれて居り、それは各國に於いて現に「進歩的」分子と呼ばれてゐる人々によつて唱導せられてゐるのみならず、諸國に於いて（その程度及び方法に若干の差異があるにしろ）既に着々として實踐に移されて居る現實の事實である。

中島商工大臣は、『臨時産業合理局』顧問としての經驗から、その考ふる所を直白に次の様に述べて居る。

『中外の競争場裡に立つて我邦として其の經濟的存在を將來に確實ならしめんが爲めには、經濟的國家主義を實現せねばならぬと思ふ。即ち、國家一業制度 (Single Industry System) 例へば鐵鋼事業なれば全國に唯だ一つ造船事業なれば全國に唯だ一つと言ふ企業大合同の建て前に成つて、之に對する企業金融の背景も國家的に統制され、而して此の單一的企業合同の機關が、國家的見地から割り出された年度計劃に遵ふて、而して其生産なり輸出政策なりが指導せられて行くと云ふ仕組にまで至らなければ、相成らぬと考へるのである。』

我國に於いては、煙草及び鹽の專賣、電信・電話及び郵便の官營等以外には、私的企業の『國家一業制度』の樹立にまで立ち至つて居ない。併し、今や、過般の撫順炭問題に鑑みて、『重要産業統制委員會』と言ふ様な新機關を設置して、日滿相互の重要産業を統制せんと計劃するの機運に向ひつゝある様である。

石炭の問題は、内地炭八・撫順炭二と言ふ割り當てによつて一先づ解決せられたが、問題は單に石炭のみに止らず、内地と植民地とを打つて一丸とする統制經濟に關して、米・鹽・木材・銑鐵・染料工業・硫安・窒素肥料等事毎に内地と植民地と衝突を起す事は豫想するに難くない。事情斯くの如くなるが故に、永井拓相は、既に撫順炭問題及び鮮米移入制限問題に手を焼いたのに鑑みて、『重要産業は獨り拓務省が問題の起る都度單獨に解決すべき問題ではなく、廣く根本的解決を必要とするとの見地から、近く商工、農林、大藏、外務等の關係各省に提議し、政府の諮問機關として重要産業統制委員會を設置せしめんと』の意向の下に諸般の準備を進めてゐる。』と報ぜられてゐる。⁽⁸⁾しかして、拓務省としては獨り産業のみならず海運業に關しても、内地と植民

地との統制を計らんとして居る。

扱て、然らば、ファッシズムの本山伊太利に於ける經濟は如何に組織せられて居るか。

先づ、組合 *Sindacati* が組合組織の第一段階をなし、それは工業・農業・商業・銀行・陸運及び内海通運・海運及び航空運輸業に就き各々雇主と労働者との組合十二と別に自由職業家の組合一との合計十三の組合から成る。第二段階は聯合 *Federazioni* であり、第三段階は總聯合 *Confederazioni* であり、更に最高の段階は總同盟 *Confederazioni generali* である。是等のものは全部組合大臣の下に統轄せられ、尙ほこの外に一九三〇年三月に設立せられた『國民組合會議』がある。その職能は、生産の統制を主とし、物價の討議其他労働法の規定、或ひは勞賃範圍及び法規々定に關して各總聯合から提出された議案を審議確認する事等にある。⁽⁹⁾

一九二七年四月二一日に發布せられた労働憲章 *Carta del Lavoro* の中に、次の如き規定を見る。「組合國家は、生産の領域に於ける私的創意 *iniziativa privata* は國家の利益を確保する最も有効且つ有益なる手段であると考へる。私的生産組織は、國家的利益の一函數であるから、それは其の生産の方向に對して國家に責任を有するものである。」(第七條)而して、「經濟的生産に於ける國家の干涉は、私的創意が缺除して居るか、若くは不充分なる時、又は國家の政治的利益が危險にさらされて居る場合にのみ行はれる。かゝる干涉は、統制・獎勵・又は直接管理と言ふ形態を採る。」(第九條)此の場合の『政治的利益』と言ふ概念は、第二條に次の様に説明せられて居る。即ち、「全生産は、國家的見地から一の統一を成す。この目的は、統一的であつて、國家的

力の發展に於いてその頂點に達する。^(iv)と。これによつて觀る時、斯かる經濟組織は、明かに資本主義的體制をとるものと言ふ可く、屢々人々が唱へるが如き『國家社會主義』的體制をとるものでない事は、明瞭である。ワーゲマン博士の命名に従ふと、それは正しく『統制收益經濟』にあたる。

斯様にして、統制收益經濟は、自由收益經濟に於ける私有財産制度を維持し、個人主義的利潤追求に對しては絶對的制限こそ附せないが、併し私的經濟活動が許されるのは個人主義の根本法として生ずるものではなく寧ろ國家の目的を實現するための手段であり、それは何時でも變更し得るものであると考へられて居るに過ぎないのであるから、私的經濟活動は種々の規則によつて絶えず國家の統制をうける。統制收益經濟、即ちフアツシズムの經濟は專制的命令權 *autokratische Willensmacht* によつて『上から』統一的總體規律を與へる。ワーゲマン博士は曰ふ、「ボルシェビズムが純粹な勞働者國家を建設したとするならば、フアツシズムはむしろ企業家國家を實現せんとするものである。^(v)」と。

斯様にして、各列強は各々その經濟をば『統制經濟』の名の下に、戰時經濟に再組織せんとしつゝあるのが資本主義的領域に於ける一般的傾向であると云はざるを得ない。此の場合、國家的立地から見て必要とせられる企業を經營するに際しても、私的利潤は勿論發生する。そして、平時經濟から戰時經濟への移行は、生産が社會化せられてゐるにも拘らず生産手段の私有が認められてゐる社會に於いては、個々の企業の利害錯綜から生ずる恐慌狀態を経過する事なくしては行はれない。

以上の考察によつて明かなるが如く、今日の帝國主義列強の採る對外政策と對内政策とは決して無關係のものではなく、同一の根本原理、ファッシズムが國家又は經濟群の内と外とにその發現の場面を異にして現はれ内外相呼應して發展して行くものに外ならない。

斯かる「ファッシズム經濟」は、果して良く所期の目的を實現し得るや？ 即ち、それを實踐する事によつて現在の資本主義諸國の危機から完全に脱却し得るや否や？ ワーゲマン博士の觀る所によると、「個々の點よりすれば、ドイツに於て統制收益經濟は、實に精細に完成を遂げて居り、その限りに於て、イタリアに於けるそれに比すべくもないが、併し、縱ひ革命直後、經濟の計畫的な建設についての思想が強く現れたとはいふものゝ、イタリアに於けるやうに、包括的に、總體的に規律するまでには至つてゐない。」⁽¹⁾ 況んや、その他の國々に於いておや。故に、「ファッシズムの經濟政策は甚だ統一的に、而も、一定の目的意識のもとに出現したが今日までに、實際に組織的であり、且つ、完全に統制された經濟組織はその政策から生じ得なかつた。如何なる場合でも、未だ、景氣對策上の合目的性が缺けてゐる。それをば最もよく證明するのは、恐慌が激烈に勃發せる點では、イタリアもヨーロッパの諸他の國家に劣らないことである。而して今日、恐慌から免れることが出来るのは、たゞ、サビエート經濟があるに過ぎない。」⁽²⁾ 斯様に、ファッシズム經濟の實踐は今尙ほ日淺く、從つてその完成がもたらす所の成果を見るまでには立ち至つて居ない。従つて、ファッシズム經濟の先驅をなした伊太利や獨乙などに於いても、その他の資本主義諸國と同じ様に經濟恐慌から脱却し得ない悩みが依然とし

てつきまといつてゐるのを觀る。吾々は、フアッシズム經濟が實踐的に完成の域に達せず未發達の狀態にある場合
に於いてさへも、理論的にそれを批判し得るが、併しそれはボルシェビズムの問題と共に後に譲り、しばらく
現實の歴史の足どりを注意深くみまもる事にしよう。ボルシェビズムの外に於ける歴史の現實の歩みは、次
第々にフアッシズムの成長へと向ふであらう。その一步一步に於いて、フアッシズムは果してよく所期の目
的の達成へと近付いて行くであらうか？ 吾々は、これに對する實踐の批判を刮目する。

(一)、(二) 『日本經濟年報』の九頁、

(三) ヲーゲマン博士は、「欲望の充足を齊整し調節し組織し規律する原則」たる經濟の組織形態をば、經濟的動機の如何によ
つて收益經濟と欲望經濟とに分ち、又此の原則の發動の可能性如何に従つて自由經濟と統制經濟とに區別し、これを組
合はせる事によつて、左の如き分類を行つてゐる。

一、自由欲望經濟（小農的生産により自給自足する領域に限られる）

二、自由收益經濟（自由資本主義）

三、統制收益經濟（フアッシズム、獨占資本主義、統制經濟）

四、統制欲望經濟（ボルシェビズム、計劃經濟）

(Wagemann, Struktur und Rhythmus der Weltwirtschaft. s. 16—22.)

(邦譯『世界經濟機構と景氣變動』二四—三四頁)

(四) Ernst Wagemann, op. cit., s. 246—248.

邦譯『國民經濟組織の缺陷と世界恐慌』九二—一〇二頁

- (五) 有澤廣巳・阿部勇共著『産業合理化』七―八頁
- (六) 小島精一著『日本計劃經濟論』二〇〇―二〇一頁
- (七) 社會政策時報、一三六號(昭七・一)九頁
- (八) 『中外商業新報』昭七・七・一七
- (九) 『内外調査資料』四年八輯(昭七・八)六四頁以下
- 土方成美著『ファッシズム』一四三頁以下
- 河野密著『ファッシズムの組織理論』(改造社版『ファッシズム研究』)八七頁以下
- Johannes Kraus, Fascism as a New Style of Life. p. 124 f. (拓殖大學論集、二卷一號)
- (十) Dr. Dobretsberger, „Korporative Wirtschaft. Kritische Sichtung ihrer Ideologien.” (Schmollers Jahrbuch. 56. Jahrgang 1. Heft) s. 20
- (十一) Wagemann, op. cit., s. 270 (邦譯書、一〇四頁)
- (十二) ditto, s. 273. (邦譯書、一一一頁)
- (十三) ditto, s. 273. (邦譯書、一一〇頁)

—一九三二・八・二九—